

田賀 朋子さん（岡山県矢掛町出身）
2014 年度 2 次隊 青年海外協力隊
派遣国：セネガル 職種：コミュニティ開発
2015 年 12 月 6 日（日）中国新聞 SELECT 掲載



※中国新聞社の許諾を得ています

ごみを利用し小物製作

アフリカ大陸最西端の国、セネガルの内陸部にあるシンチューマレム村に昨年 11 月、着任した。青年海外協力隊員のコミュニティ開発という職種で派遣されているが、いわば何でも屋。稲作指導からかまどの改良まで、住民の生活改善に取り組んでいる。最も力を入れているのは衛生環境面だ。

廃棄物の収集処理といったシステムのないこの国では、ごみは燃やすか、放置だ。基本的にはきれい好きなため、家や仕



集めたビニールごみで作った小銭入れを掲げる子どもたち

事場は掃除されているが、街角にごみ箱はなく、ポイ捨てが当たり前。市場や道端にごみが散乱している。悪臭やけがの心配に加え、ビニールごみは雨期にマラリアの原因ともなる蚊の発生も促す。

そこで取り組み始めたのが、捨てられたビニールごみを使った小物の製作と販売だ。村の仕立屋と協力し、仕立てで廃棄される布きれと組み合わせたかばんやポーチを作り、住民向けに売り出した。「あの人が持っていたのは誰が作ったの?」。うわさが村で広まり注文もますます。仕立屋には副収入にもなった。

ビニールごみを使った小銭入れの作り方も子どもたちに教えている。これも住民たちに大反響。子どもたちがごみを集めるようにもなった。今後は村で週 1 回ある移動市での販売なども予定している。

ここセネガルに住んでいるからこそ気付けること、日本という外部から来たからこそ気付くこと、その両方の視点を意識し何でも屋を続けていきたい。